南魚沼市の今を見つめる

中越大震災 新潟・福島豪雨

中越大震災

平成16年10月23日午後5時56分、旧川口町を震源地とした最大震度7の地震が発生し、その後も大きな余震が続き、中越地域を中心に甚大な被害をもたらしました。

南魚沼市でも、最大震度5強を記録し、大規模な停電や水道の断水、林道の崩落など、大きな被害がありました。

林道浅沢線の崩落状況〔四十日地区〕

登川の破堤状況〔大里地区〕

中越大震災や新潟・福島豪雨など、大規模な自然災害は、ライフラインを切断し、農地や山腹の崩壊、河川の氾濫などを引き起こし、市内に未曾有の被害を発生させました。

被災規模が大きく、件数も多かったために、復旧工事には数年を要しました。

市では、国・県とともに、さらに災害に強いまちづくりをめざし、十二沢川改修工事などを進めています。

Niigata Chuetsu Earthquake / Niigata, Fukushima torrential rains

Terrible natural disaster, such as the Niigata Chuetsu earthquake and the Niigata/Fukushima torrential rain broke the lifeline of the residents, farmland and mountain landslide, river flooding and unparalleled damage to the city. The scale of these disasters was large and much damage was reported, therefore recovery construction has taken several years. The city, together with the government and prefecture aims for disaster resistant city development and is advancing on renovation construction.

新潟・福島豪雨

平成23年7月27日から30日にかけて、新潟県と福島県にかつてない猛烈な豪雨が襲いました。

南魚沼市でも累計降水量563㎜、1時間あたり最大降水量89・5㎜を観測しました〔気象庁 塩沢観測所〕。これにより道路、河川、農地、山林、水道施設をはじめ、一般家屋への浸水や公共施設など、広範囲にわたり大規模な被害が発生しました。

国道17号付近の浸水状況〔本庁舎付近〕

中越大震災からの復旧

被災時

復旧後

市道西枯又線 法面の復旧状況〔四十日地区〕

中越大震災によって、四十日地区では山の法面が崩壊し、土砂が市道西枯木又線と一級河川四十日川を埋め、対岸のほ場にまで流れ込みました。測量や応急復旧工事をしているころは、まだ余震が続き、危険と隣り合わせの作業でした。2年続きの豪雪の影響もあり、復旧には時間を要しましたが、今では市道を安全に通行することができます。

新潟・福島豪雨からの復旧

被災時

復旧後

水田の復旧状況〔吉里 外谷地区〕

吉里の外谷地区では、大規模な山腹崩壊により、約5ヘクタールの農地に土砂が厚さ1メートル以上堆積しました。土とともに杉の巨木が田や道路の上に乱積みとなり、田の原形をとどめませんでした。市では、原形復旧が不可能であると判断し、周辺の未被災農地を含めた災害関連ほ場整備による復旧を行いました。

豪雨によって、水源である三国川ダムに大量の土砂が流れ込み、取水する水が濁ったため、畔地浄水場の浄水処理能力が著しく低下し、大規模な断水が発生しました。

この教訓を生かし、現在、市内各所に緊急水源の整備を図るとともに、圧送式給水車を配備し、非常時にも安定して給水できるよう対策を進めています。

緊急給水活動訓練